



# 宮崎県森林連合報

発行 宮崎県宮崎市橋通西2-2-2 宮崎県森林組合連合会 電話0985(25)5133 2023年1月25日発行



都城優良材市

2023 1  
vol.305

## 目次

新春初市を開催	1
年頭のご挨拶	2～4
宮崎県下8森林組合 令和5年の抱負	5～8
令和4年度 JForest 全国森林組合代表者大会	9
林業団体等による国等への要望活動を実施	9
「第20回優良材市」を開催	10
新たな森林調査システム検証事業	11
センダン枝打ちの講習を開催	12
「JForest 令和の森」の3年目の下刈りを実施	13
森林施業プランナー養成研修会を開催	13
森林組合女性職員研修会を開催	14
森林組合インボイス制度研修会を開催	14
みやざき森林経営管理支援センター活動報告 (Vol.3)	15
木材市況	16
定例市開催カレンダー	17

# 新春初市を開催

令和5年の幕開けと共に当会の各林產物流通センターでは、1月5日の東郷センターと高原センターを皮切りに、6日は高千穂及び五ヶ瀬、7日に都城、10日に宮崎、12日に日南と新春初市を開催しました。

ここ数年は新型コロナウイルス感染防止の観点から、式典を見送っていましたが、今年の初市は、来賓の方々や出荷者、買上業者など多数の参加者の中で開催することができました。

5日に開催した東郷センターの初市では、当会の長友幹雄代表理事会長による主催者挨拶の後、多くの来賓に出席をいただく中、江藤拓衆議院議員、長倉佐知子宮崎県環境森林部次長、十屋幸平日向市長の3名から祝辞を賜りました。

その後、今年1年の林業・木材産業の発展を祈念



東郷林產物流通センター初市

して、益留所長による威勢のよい三本締めを行った後、来賓の方々に売り子として参加していただき、開市しました。

県森連全体の初市総取扱量は、21,700m<sup>3</sup>、平均価格は13,732円となりました。



都城林產物流通センター初市



入札の様子（高千穂林產物流通センター）

## J Forest 森林組合綱領

私たち森林組合は、地域の森林管理主体として、地域の森林を協同の力で育て守り続け、森林環境保全と林業発展を通じて、地球温暖化防止へ貢献するとともに、水源の保全、国土の安全、健全な森林環境と良質の木材を国民へ提供しながら、健康で安心、豊かな生活を支えていくことを使命とします。

私たち森林組合の組合員・役職員は、こうした使命を自覚し、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主・自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、平和とより民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、私たち森林組合の組合員・役職員は、次のことを宣誓し、責任をもって行動します。

### — 私たち森林組合のめざすもの —

- 一、森林の恵みに感謝し、地球環境保全のため、豊かな森林を未来に引き継ごう。
- 一、森林を守り育て、林業と山村を活性化しよう。
- 一、J Forest 森林組合への積極的な参加によって、協同の力を發揮しよう。
- 一、自主・自立、民主的運営を基本に、開かれた組合経営を目指そう。
- 一、協同の理念と誇りある仕事を通じて、共に生きがいを追及しよう。

# 令和5年 新年あいさつ

宮崎県森林組合連合会 代表理事長

長友 幹雄



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

また日頃から当会の運営につきまして、格別の御理解、御協力をいただいておりますことに、感謝申し上げます。

さて、昨年も世界中で、また国内で様々な出来事がありましたが、いくつか挙げてみると、ロシアのウクライナ侵攻による戦争とそれに伴う社会・経済情勢の大きな変化がまずは挙げられます。それは今なお続いて長期化し、泥沼の様相を呈しています。アメリカの景気後退とも相まって、特に日本では急激な円安となったことから、エネルギー資源や食糧、半導体をはじめ、あらゆる物資の供給不足と物価高が顕著となり、林業界でもその影響を受けています。産業グローバル化の負の面が露呈した格好となりました。今年こそ戦争が終わり、安心して暮らせる世の中になってほしいものです。

新型コロナウィルス感染も残念ながら収束とはならず、重症化リスクの遞減化に伴い感染防止への意識が少しずつ変化してきているといふものの、感染者数が増加することもあり、私たちの生活は、未だ以前のような状況にはありません。当会においても、昨年末にかけて感染が拡大し、皆様には大変ご迷惑をお掛けする事態となりました。今年は、役職員とも健康で仕事にあたり、活気ある職場にしたいものです。

9月に発生した台風14号は、宮崎県内各地に大きな被害をもたらし、特に県北では国県道の生活基盤道路や林道、作業道など、事業に必要な施設も不通となり、現場に入ることができないため、事業の進捗にも大きな影響が出ていると聞きます。一刻も早い復旧を願うものであります。

当会においては、主力事業であります木材販売事業で、取扱量、販売額ともに順調に推移しており、計画達成に期待をしているところであります。一時期、台風の影響による原木出荷量の減少を心配しましたが、出荷者の皆様の御努力、御協力により、安定した入荷量となっています。今年も引き続きの御出荷をお願いいたします。

一方、県森連を含め、私ども森林組合系における共通の課題認識は、引き続き再造林問題で一致しています。伐採面積が増える一方で、様々な要因から再造林が思うように進んでいませんが、持続可能な産業として将来にわたって継続していくためにはどうしても必要なことですので、近年飛躍的に進んだデジタル技術等を取り入れながら、計画的で効率的な施業ができるようDXやGXといった分野にも取り組んでいきたいと思います。

令和5年も、何かと厳しい予測が出ておりますが、当会としては、労働災害ゼロを最優先の目標に掲げ、皆様と共に林業発展のために微力ながら力を尽くしていきたいと思います。

もうしばらく寒い時期が続きますが、皆様におかれましては、健康に留意して過ごしていただき、そして新しい年が良い年ありますことを御祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

# 新年を迎えて

宮崎県知事  
河野俊嗣



謹んで新年のお喜びを申し上げます。

森林組合及び関係者の皆様には、日頃から林業の振興はもとより、県政の推進に対する温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

長引くコロナ禍や原油価格・物価高騰に加え、昨年9月の台風第14号で甚大な被害が発生し、本県は「百年に一度」とも言うべき難局に直面しております。

台風災害からの早期復旧はもとより、感染拡大防止のため医療提供体制の確保やワクチン接種を進めるとともに、生活に困窮されている方々や、飲食・観光・宿泊業の皆様に対する支援など、きめ細かな施策を機動的かつ継続的に実施し、全力で宮崎の再生に取り組んでまいります。

本県では、昨年、宮崎と神戸を結ぶ長距離フェリーの新船2隻が就航したほか、本年3月までには、東九州自動車道が北九州市から日南市まで結ばれるなど、交通インフラの整備が着実に進展しています。

さらに、昨年10月に鹿児島県で開催された全国和牛能力共進会では、史上初めて4大会連続となる内閣総理大臣賞を受賞し、特に、牛肉の美味しさを評価するために新設された部門で日本一に輝いたことは、大きな成果となりました。

これらは、長年にわたる関係の皆様の努力のたまものであり、深く敬意を表し、感謝申し上げます。

今年は、宮崎県が再置された1883年から数えて、140年目の節目の年であり、「WBC侍ジャパン合宿」「G7宮崎農業大臣会合」「宮崎県人会世界大会」等の開催を好機と捉え、「おいしさ日本一」の宮崎牛をはじめ本県の多彩な魅力を国内外に発信し、ブランド力を高めてまいります。そして、インバウンドを含む観光振興や輸出促進など、世界の活力を取り込むグローバル戦略の展開を通じて経済成長につなげていまいります。

林業・木材産業分野におきましては、本県はスギ素材生産量31年連続日本一を達成するとともに、製材品の出荷量も全国2位であるなど、我が国を代表する国産材供給基地として確固たる地位を築いているところです。

本県が誇る豊かな森林は、先人のたゆまぬ努力によって適切に維持・管理されてきたものであり、木材供給はもとより、水を貯え、土砂災害や洪水から私達の生命や財産を守るとともに、多様な生物を育み、二酸化炭素の吸収・固定にも貢献するなど、多面的な機能を發揮しております。

伐採による資源利用が進む中、次の世代へ資源循環のバトンを渡すためには、「伐って、使って、すぐ植える」資源循環型林業の実現が大変重要であります。

このため、県では、令和12年度までを計画期間とした「第八次宮崎県森林・林業長期計画」に基づき、再造林の効率化・省力化やスマート林業の推進、林業・木材産業を支える担い手の確保・育成、木材の生産・加工・流通改革や新たな木材需要の開拓などにしっかりと取り組んでまいりますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

50年先、100年先も豊かな森林が県土に拡がり、将来にわたって林業・木材産業が発展していくよう、資源循環型林業を推進するとともに、本県が、この先も素材生産量日本一を続けることにより、我が国を代表する木材供給県としての役割をしっかりと果たしてまいります。

本年が、皆様によりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げまして、年頭の御挨拶といたします。

# 令和5年 年頭御挨拶

全国森林組合連合会 代表理事長

中崎和久



年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、弊会の業務運営につきまして特段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も集中豪雨等により全国各地で災害が発生しました。被災された方々に衷心よりお見舞いを申し上げるとともに、森林組合系統が一丸となって、復旧・減災の取組に尽力することを改めて決意する次第です。また、新型コロナウイルス感染症については、感染対策から社会経済活動との両立への転換が進められているところですが、昨年末より新たな感染拡大が始まっています。ウクライナ情勢を始めとした世界情勢の混迷と合わせて、経済への影響が懸念されるところです。

その一方で、SDGsやカーボンニュートラル社会の理念の広がりを受け、森林の多面的機能の発揮への国民の期待が高まっており、森林組合系統に対しては、地域の森林管理の担い手として、森林資源の適正な管理や循環利用に向け中心的な役割を発揮することが求められています。

そのような中、森林組合系統では、一昨年の秋に決議した「JForest ビジョン2030」に基づき、系統各組織において、10年後の夢・目指す姿を策定し、地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けた取組を本格展開しているところです。

関連して、弊会が事務局を務める「林業技能向上センター」は昨年9月に任意団体から一般社団法人となり、林業に関する技能検定制度の構築に向けた取組を加速しております。技能検定制度の創設により、現場技能者の所得向上や作業環境の改善が図られ、ひいては業界全体の課題である労働力不足の解消につながるよう取組を進めて参ります。

また、昨年6月には森林・林業・木材関係6団体とともに、国産材の安定供給体制の構築に向けた「共同行動宣言」を行いました。この共同行動宣言では、「時代の要請に応える国産材の安定供給体制の構築に向けて」をテーマに、日本の森林が健全な姿で次世代に受け継がれていくため、持続性の確保された国産材の原木及び製品の生産・流通・利用と国産材シェアの拡大に向けて、生産者と需要者が一体となり実現を目指すこととした画期的なものであり、主旨の実現に向け協力体制の構築に注力して参ります。その他、昨年8月には韓国山林組合中央会と事業協力協定を締結し、林業政策や技術者育成に関する情報共有等、相互発展に向け協力を深めることとしました。早速、韓国の山林組合視察団による日本の森林組合、森林組合連合会への視察が行われ、今後も様々な連携を進めて参ります。

さらに、新たな取組として、カーボンニュートラル社会への貢献を目指し、農林中央金庫とともに、森林組合系統における森林由来クレジットの円滑化に向けてサポート策の検討を進めています。

今後も、弊会では系統関係者及び関連団体とともに、森林資源の循環利用を通じた「グリーン成長」の実現、人材の確保・育成、林業労働安全、国産材利用促進等に向け、役職員一同精進する所存ですので、今後とも倍旧のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

# 宮崎県下8森林組合

宮崎中央  
森林組合

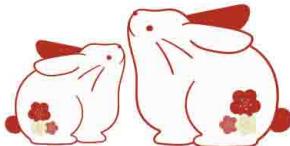


近年、自然災害の発生が増加している中、昨年9月の台風14号では、宮崎県北部で線状降水帯が2度発生するなど局地的な豪雨に見舞われ、家屋の浸水・地滑りや倒木による長期に渡る通行止めや停電という甚大な被害をもたらしました。

国土強靭化対策の中で、森林のもつ多面的機能を發揮する事により、防災・減災を行うことが期待されています。皆伐後の確実な再造林、機能の低下した山の手入れ、また、強靭で災害に強い林道の整備等を行う事で、地域の防災・減災に努めていきます。

本年も原木価格が高値で安定するよう良質材の出荷を行いながら、林業従事者確保のために魅力ある職場づくり、労働災害ゼロを目指してまいりますので、皆様方の温かいご支援、ご協力を願いいたします。

南那珂  
森林組合



昨年は、大型の台風14号が襲来し、特に県北に甚大な災害をもたらし、新型コロナにおいてもいまだ収束をみないまま新年を迎えることとなりました。

さらには、ロシアによるウクライナ侵攻等によるエネルギー高騰、アメリカの金融引き締めに伴う円安など日本経済への不安が高まっています。

また、林業界においては、第三次ウッドショックによる国産木材価格が上昇したことで森林・木材産業が注目を浴びている中、強固なサプライチェーンの構築、再造林の推進、労働安全など取り組むべき課題も残されています。

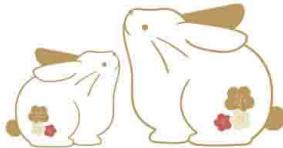
令和5年においては、林業におけるデジタル化、ICT化が急速に進められ、新たな林業に対する予算措置も予測されます。400年の歴史を持つ当地域の飫肥林業においても変革とチャレンジの年になると考えられます。

つきましては、森林調査・施業集約化、伐採・流通の効率化、再造林の省力化や低コスト化などに取り組み、組合員の皆様の期待に応えられる職場づくりに努めて参りますので、今後とも皆様方の温かいご支援・ご協力を願いいたします。



# 令和5年の抱負

都城森林組合



## 『伐ったら、すぐに植えて、次世代に繋ごう』

昨年は、令和3年から始まった第3次ウッドショックの影響を受け木材価格の相場を探る年でありました。

この様な中で、利用期を迎えた林分がさらに成長を続け、いっそうの皆伐が進む状況下において、皆伐後の再造林率は未だに低位にあり循環する森林資源が減少し続けております。

そこで、当組合スローガンの達成に向けて、伐採と造林の一貫作業システムのスムーズな連携のためのコンテナ苗供給体制強化と更なる下刈作業の省力化に努め、森林の造林・伐採から加工・流通までの木材生産を継続させながら、エネルギー利用や森林由来クレジットの活用などで森林の価値を高めていき、伐採から再造林・保育に至る収支をプラスに転換できる持続可能な森林経営と林業従事者の所得向上を見据えた『新しい林業』に積極的に取り組み、新系統運動による地域の森林組合としての目指す姿の達成のために役職員一丸となり事業展開して参ります。



西諸地区  
森林組合



一向に新型コロナウイルスが沈静化しない中、ロシアによるウクライナ侵攻や円安等による物価高騰など日本経済へ多大な影響のあった1年でした。

しかし、この様な中においても皆伐面積は増大し、再造林率は相変わらず低いため、再造林の重要性を訴え各市町による環境譲与税を活用した助成や、当組合による助成を行うことで再造林を推進しているところであります。



その様なことから、ICTによる資源管理や高精度のGPS及びドローンなどスマート林業構築や資材運搬用ドローンなど造林作業の低コスト化に取り組み、地域の森林を守り育て循環型林業を確立するため、森林組合ビジョン2030を念頭に、今年が「兔の登り坂」のように物事が順調に進みやすい環境になる事を願い、役職員が一致団結し「新時代」へ邁進して参りますので、本年も皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

# 宮崎県下8森林組合

児湯広域  
森林組合



昨年は、国内外において様々な出来事があった一年であります。その影響を受け、社会・経済の状況は非常に不安定になっています。

当組合においては、昨年の台風14号により作業道等が大きな被害を受け、今後の事業展開に影響を及ぼしています。この厳しい情勢、状況を組合一丸となり乗り切るため、日々精進してまいります。

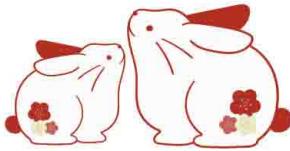
さて、令和5年は中期計画の最終年となります。掲げた課題、目標を達成することを念頭に取り組みたいと思います。多様な課題のなかでも、担い手の確保・育成は今後の組合運営に必要不可欠であることから積極的に取り組み、森林・林業の担い手として、再造林問題の解消にも努めていきます。

また、正しい情報による適切で持続可能な森林管理を行う為、DX分野への取組みを行っていきます。新年を迎える新たに、組合理念である「組合員のための組合であること」「組合員に信頼される職員であること」「森林・林業界の常にリーダーであること」を追求し、邁進します。

今年も皆様の変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



延岡地区  
森林組合

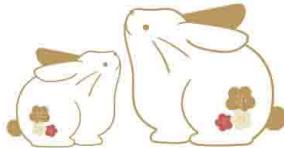


今、地球の温暖化防止、頻発する災害防止等のため、森林の役割が重要視されております。その様な中、国等行政機関においては、森林の適正管理や国産材の安定的な供給体制確立を目指すとともに、林業の経営効率化のための各種施策が講じられております。森林所有者にとっても組合にとってもプラスに働くよう、変化に対応していく所存です。

また、当組合管内では、森林所有者の高齢化、後継者不在などによる伐採後の再造林率の低下、山林労働者の高齢化や減少、獣害対策等々課題が山積しております。これらの変化、課題に対応・解決するため、行政機関のご指導・ご協力を仰ぎながら森林の適正管理に努め、組合員の皆様、組合事業にご協力いただいている皆様方の期待に応えられるよう、今後とも役職員一同、組合事業の維持・発展のため力を合わせ頑張ります。どうぞ宜しくお願ひ致します。

# 令和5年の抱負

耳川広域  
森林組合



一昨年のウッドショックにより国産材への評価の高まりから、昨年も引き続き原木価格は安定して推移し、当組合も計画に沿った経営が図られたと考えます。

また、昨年8月に制度改正されたJ-クレジット制度は、今後の林業にとって大きな追い風だと考えます。

制度改正によって、過去に施業された間伐の証明方法も簡略化され、更に、皆伐も再造林の実施を条件に有利な算定基準で炭素吸収量にカウントされるなど、これまで以上に取り組みやすい制度となっています。

これまで無かった財源がこの制度によって生まれるものであり、本年は、この認証取得に積極的に取り組み、これを山元への還元や再造林対策等に活用できるよう早期実現に努めてまいります。

加えて、流域内のコンテナ苗生産は、未だ自給率が1割に届かないため、生産者が安心して経営できる環境を整え、目標自給率6割の早期達成に努めます。

本年も経済の先行き不透明感の漂う年初ですが、組合員の皆様の期待に応えられるよう役職員一丸となって取り組んで参りますので、関係者の皆様のより一層のご指導をお願い致します。



西臼杵  
森林組合



昨年も、収束の見えないコロナ禍において、総代会を始め様々な行事等が縮小や中止せざるを得ない状況となった年となりました。

このような中、一昨年ほどではありませんでしたが、木材価格が高値横ばいで推移したこと、上半期におきましては計画を大きく上回る結果を上げることができました。

その一方で、昨年9月に発生した台風14号の甚大なる被害を受け、下期においては事業計画の変更等を余儀なくされました。役職員一丸となって計画達成に向けて邁進して参りたいと思っております。

また、昨年創設した当組合独自の再造林対策基金を活用して、当組合の基本理念であります「伐って、使って、すぐ植える」循環型林業の確立に向けて植栽未済地解消に実績を上げることができました。

これにより「ひなたのチカラ林業経営者」としての役割も充分果たし、今後も組合員への更なるサービス向上に取組んで参りますので、より一層のご支援、ご協力をお願い致します。



## 令和4年度 JForest 全国森林組合代表者大会

令和4年度全国森林組合代表者大会が10月25日に東京都中央区の銀座ブロッサム中央会館で開催されました。今大会は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の観点から、来場者数を大幅に減らすとともに、全国の森林組合系統で視聴できるよう、ライブ配信が行われました。

大会では、はじめに福岡県森林組合連合会の三浦智子総務課長が森林組合綱領の唱和リーダーを務め綱領唱和を行い、全森連の中崎和久代表理事長が主催者を代表して挨拶しました。来賓による挨拶では、野村哲郎農林水産大臣の祝辞を織田央林野庁長官が代読し、(一社)日本本林業協会の島田泰助会長、(一社)日本協同組合連携機構の中家徹代表理事長、農林中央金庫の奥和登代表理事理事長が挨拶を行いました。

続いて、森林組合系統



中崎和久代表理事長

の発展に功績があった個人403名が、全国森林組合連合会会長表彰として表彰されました。表彰状の授与後には、男鹿森林組合の鈴木隆夫代表理事組合長が受賞者を代表して謝辞を述べました。

その後の意見表明では、青森県森林組合連合会の須藤廣明代表理事長が「森林整備のための財源確保について」、京丹波森林組合の樋口義昭代表理事組合長が、「森林組合系統運動の推進について」として意見を述べました。そして、全森連の理事である愛媛県森林組合連合会の高山康人代表理事長による大会決議が採択されました。最後に全森連の上田和久副会長理事が閉会挨拶とがんばろう三唱を行い、盛会のもと今大会は閉会しました。



大会風景

## 林業団体等による国等への要望活動を実施

当会を含む県内の主要林業・木材産業団体は、国等への要望活動を11月15日に実施しました。

要望内容は、「森林・林業・木材産業関連予算の確保及び台風災害に対する緊急対策」で、財務省、林野庁、地元選出国会議員に対して、積極的な要望活動が実施されました。

要望先の国会議員や林野庁からは、林野関連予算概算要求の確保や今般の台風災害からの早期復旧に向け、全力で取り組むとのご発言をいただいたところであり、本県の林業・木材産業団体



林野庁長官室にて

の熱意が十分伝わる活動となりました。

今回の主な要望事項は以下の通りです。

- 1 森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策の推進
- 2 林業デジタル・イノベーション総合対策の推進
- 3 林業・木材産業における「人への投資」総合対策の推進
- 4 森林・山村地域振興対策の推進
- 5 花粉発生源対策の推進
- 6 公共事業（森林整備事業・治山事業）の推進
- 7 令和4年台風第14号災害に対する緊急対策の実施

## 「第20回優良材市」を開催

令和5年1月23日に都城林産物流通センターにおいて「第20回優良材市」を開催しました。これは宮崎県産の優良材を県内外に販売し、県産材の品質の良さをPRするとともに、林業・木材産業の活性化を図る目的で毎年開催しているものです。

今年の優良材市には、県内の森林組合や素材生産業者から、広葉樹やスギ・ヒノキ・モミ・マツなどの県産優良材約280m<sup>3</sup>が出材されました。また、当日は優良材に先立ち、スギ・ヒノキの一般材約7,400m<sup>3</sup>の販売も行いました。

当日は、競り人を務める当会の5ヶ所のセンター所長による威勢の良い掛け声のなか、カヤ6.2m×58cmが21.1万円/m<sup>3</sup>で取引されたほか、ミズメ4.0m×64cmが17.3万円/m<sup>3</sup>、ケヤキ4.8m×76cmが16万円/m<sup>3</sup>、クス4.2m×70cmが13万円/m<sup>3</sup>、スギ4.0m×76cmが

4.6万円/m<sup>3</sup>等で落札されるなど、活発な取引が行われました。

今回の優良材市には、宮崎県内や九州各県をはじめ、遠方からも約30社の買方業者が来場し、盛会のうちに終えることができました。当会では、今後も毎年、優良材市を開催し、県産優良材のPRや普及拡大に努めてまいります。



主催者あいさつ（長友会長）



優良材が並ぶ



市売りの様子



合言葉は「ジモ・ミヤ・ラブ」

「地元の宮崎を愛することが  
地産地消につながる」

という趣旨の地産地消の  
キャッチフレーズです

みやざき元気！“地産地消”推進県民会議

ディスカバー宮崎 応援消費

検索

ホームページに応援消費コーナーを  
設けています。



## 新たな森林調査システム検証事業

当会では、令和4年8月から新たな森林調査システム検証事業を実施しています。

この事業は、森林の立木本数や樹高、胸高直径等の調査について、従来の調査方法（毎木調査等）とドローンや地上レーザー機器を用いたレーザー計測による手法との比較・検討を行うとともに、産官学が連携し、レーザー計測データを活用した新たな森林施業モデル検討会を開催し、スマート林業の推進を図ることを目的としています。

調査には、高性能カメラ搭載の「マトリス300RTK」と、高性能レーザー搭載の「マトリス600PRO」を用い、南は串間市から、北は延岡市までの県内11箇所で森林資源調査を行っております。

具体的には、空撮で得た写真を使ってオルソ画像を作成し、レーザー計測で得たデータを解析して、樹高、胸高直径、立木本数を推定しています。

実際に山中に入って、プロット調査とレーザー計測で得たデータとの比較も実施しています。

これまでの人力による森林資源調査は、測定器具を抱えて現場に出向き、時間と労力を要するだけでなく、滑落の危険も伴う難儀な作業でしたが、これらの作業をドローンで行うことで、調査員は安全な場所からドローンを操作し、取得したデータを屋内

で解析することが出来るようになります。調査の安全性が飛躍的に向上します。

効率化という観点で見ても、通常の毎木調査では1ha当たり3~4人日、10haの調査では30人日要するところを、ドローン計測では、4人体制で、わずか3時間程度で終了できます。その後に行う推定精度向上のためのプロット調査に要する日数を加えても、圧倒的な効率化が図られることが確認できています。

このように、森林資源調査にドローンを用いることで、従来の調査方法に比べて、作業安全性の向上と作業の効率化が実現できます。

ドローンを起伏の激しい山中で安全に飛行させるには相当の操作技術が欲求されるため、当会の担当職員は「DJIスペシャリスト」という、無人航空機を正しく安全に操縦できるという民間の資格を取得しており、日々、知識取得と技能の研鑽に努めています。

林業界には今、ドローンのような新しい技術が次々と導入されており、林業関係者はもとより一般の方々の山に対する見方が変化しつつあります。適材適所で新技術を使い、林業の更なる飛躍に貢献できるよう努めてまいります。



マトリス300RTK



高性能カメラ「Zenmuse P1」



レーザー計測の様子

# センダン枝打ちの講習を開催

当会は、森林整備労務軽減対策事業の一環として、下刈りの省力化に貢献する樹種として期待されているセンダンの枝打ち講習会を、12月12日と20日に串間市と美郷町の2ヶ所で開催し、県内の森林組合職員を中心に約15名が参加しました。

本来であれば、センダンは3月から4月の間または7月から9月の間で芽掻きを行うことで、枝打ちの必要がなく通直な材がとれる樹種です。しかしながら、宮崎県内においてはセンダンの生育方法が普及していない状況であるため、先進的に生育方法の調査を進めている熊本県の事例を参考に今回の講習会を企画したものです。

講師には、宮崎県林業技術センターの上杉基 氏を迎えて、枝打ち方法を中心に植栽から伐採までのセンダンの生育方法について説明していただきました。また、今回枝打ちを実施した現場については、来年以降の比較調査を行うために林業技術センター

から提供いただいた肥料を苗木に施しました。

今回の講習会をきっかけに、センダンの植栽と適切な育成方法が普及することで、今後の林業の省力化に貢献できる可能性を十分得られたように感じます。

当会では今後も、下刈りの省力化など森林整備に係る労務軽減対策に取り組んでまいります。



落とす枝を選定中



講習会の様子



枝打ち作業



根元周辺に施肥

## 森林保険

火 災 風 水 干 凍 雪 潮 噴火災害

火災、台風等による気象災及び噴火災などの、いつ起こるか分からない森林災害のリスクから、少ない掛金で手厚い補償を行い、森林の復旧や森林経営をサポートする森林保険を取り扱っています。



加入して  
よかったです!

森林保険は、災害による経済的損失を補填することにより林業経営の安定と災害後の再造林を確実に行うことを目的とした保険であり、森林所有者自らが災害に備える唯一のセーフティーネットです。

※ 平成27年4月より森林国営保険が国から(研)森林研究・整備機構へ移管されました。移管後も保険の補償 内容に変更はございませんのでご安心ください。

保険金のお支払いの対象となる8つの災害



山火事で受けた  
損害



暴風による倒壊  
などの損害



暴雨、洪水による  
浸没、水浸・流失  
などの損害



雷電による倒壊  
倒伏、根折りなどの  
損害



乾燥による枯死  
などの損害



凍害による枯死  
などの損害



豪雪による倒壊  
倒伏、根折れなどの  
損害



火山噴火による  
倒壊、根折れ、浸没、  
根腐などの損害

お申し込みは簡単!

お近くの森林組合、森林組合連合会にお気軽に問い合わせください。

## 「JForest 令和の森」の3年目の下刈りを実施

当会は、令和4年の11月下旬に、「JForest 令和の森」の下刈りを実施しました。

令和の森は、当会が宮崎市田野町に所有する0.4haの山林で、スギのエリートツリーをはじめ、特定母樹のタノアカや早生樹のチャンチンモドキ、センダン等700本ほどを、令和2年3月に記念植樹したものです。

今年の下刈りは、繁茂したススキや灌木を相手にたいへんな労力を要した昨年の経験を活かし、草刈機を4台に増やし、安全衛生教育を受講した職員で万全の態勢で臨みました。

しかしながら、当日は天候に恵まれずあいにくの雨、加えて風も強いなかでの作業となりました。早

生樹はススキを超える伸びでしたが、タノアカ等は大きいものでも高さ1m20cm程度、2m以上あろうススキと雨に視界を遮られ、繁茂したススキの中から植栽木を見つけ出し、足場が悪いなかで植栽木を傷つけぬよう慎重に下刈りを行いました。

結果として、4日間延べ15名の参加で、下刈りを終えることとなりました。

下刈りの重労働と傾斜地での作業の困難さを痛感し、いかにして下刈りなどの林業労働作業の負荷軽減や安全性の確保に取り組むかを考える契機となりました。今後ともセンダン等の早生樹の植栽やドローンによる省力化、ラジコン式草刈機の導入等、一つひとつの課題を解決し、林業の成長産業化に努めてまいります。



下刈りに挑む職員



植栽3年目のエリートツリー



下刈り後の風景

## 森林施業プランナー養成研修会を開催

当会は、10月27日から28日の2日間、JForestビル大会議室にて、「森林施業プランナー養成研修会」を開催しました。

この研修会は、森林施業プランナーの育成や、森林施業プランナーの資格取得者向けの支援やスキルアップ、情報交換を目的とした研修として平成24年度から継続して実施しているもので、県内の森林組合や素材生産業者など19名が参加しました。

今年度の研修会は、昨年度に引き続き、講師として株式会社鹿児島総合研究所より新永智士氏、鹿児島大学農学部より牧野耕輔氏、奥山洋一郎氏をお迎えし、座学やプランナーの中心的業務のひとつである林地の集約化をイメージした実践的なワークなど2部構成のカリキュラムで研修を行いました。

た。研修後のアンケートでは、「プランナーとして何をするのか、何をしないといけないのか、あまり分かっていなかったので勉強になった」や、「現場の生産性と事業体の財務面、両方から考える重要性が分かった」、「実践するには地道な努力と高いコミュニケーション能力、諦めない精神力が必要であると痛切に実感した」などの感想があり、参加者にとってより深い学びとなったように感じます。



研修会の様子



グループワークの様子

## 森林組合女性職員研修会を開催

当会は、11月10日から11日の2日間、森林組合の女性職員を対象とした「第4回宮崎県森林組合女性職員研修会」をJForestビル大会議室にて開催しました。

この研修会は、男性の活躍が目立つ森林組合系統の職場において、女性職員のスキルアップと職場における意欲向上を目的として平成28年度より2年に1度開催し、今回が4回目となりました。

1日目の研修では、赤間瞳氏、児玉真美氏より「仕事と家庭の両立について」、「女性のキャリア形成について」、2日目は、オード



グループワークの様子

リーテラス 川子ひとみ氏より「女性職員に対する職場のモチベーションアップ」について、ご講義いただきました。

研修後のアンケートでは、「キャリア=仕事とは思わず、人間性のキャリア形成をしていこうと思った」や、「自分の中のネガティブな部分を肯定的な言葉で言い換えてもらったことで、これで大丈夫なんだと自分を認めることができたように思う」などの感想があり、グループワークの時間では、働く女性の悩み等を熱心に意見交換されている姿が深く印象に残りました。



研修会の様子

## 森林組合インボイス制度研修会を開催

当会は、11月22日に、「森林組合インボイス制度研修会」をJForestビル大会議室にて開催しました。

この研修会は、令和5年10月1日から施行されるインボイス制度について理解を深めるため企画したもので、多くの方に受講いただきました。講師には、宮崎税務署より鈴木孝氏、林野庁によ



インボイス制度についての説明

り江崎五郎氏をお迎えしてご講義いただきました。研修後のアンケートでは、「インボイス以外にも税関係について、ある程度知識がないと分からぬ内容だった」や、「森林組合系統の視点や実例を基に話を進めていただき、理解しやすかった」などの感想があり、参加者それぞれが実りある研修とすることが出来たように感じます。当会では、今後も様々な研修会を計画しています。



研修会の様子

宮崎県森林組合連合会

人権問題啓発推進事業

- 職員採用に際し、戸籍謄本等プライバシーに関する書類の提出を求めることが
- できるような環境整備に努めること。
- 又は、人権問題啓発推進担当部署が活動問題啓発担当の責任を有する者をいう。）

- 森林組合、県森連等の長は、人権問題啓発推進担当者（総務担当部署において人権問題啓発担当の責任を有する者をいう。）

- 尊重する意識・態度の涵養が図られるよう創意工夫すること。

- 内検討会を実施する等により、役職員一人一人が人権意識を高め、他者の価値を尊重する意識・態度の涵養が図られる。

- 人権問題の啓発推進に当たっては、女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者、刑を終えて出所した人などへの偏見や差別を除去することを内容とする国民行事計画の趣旨を踏まえ、それぞれの分野において自らの問題として積極的な役割の發揮に努めること。

- 森林組合系統組織を挙げて取り組もう
- 人権問題の啓発推進に取り組むことなる基本事項

# みやざき森林経営管理支援センター 活動報告（Vol.3）

森林経営管理制度は、手入れの行き届いていない森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託を受け、①林業経営に適した森林は「ひなたのチカラ林業経営者（県が登録・公表、R4.1.2現在67者）」に再委託して森林整備するとともに、②林業経営に適さない森林は市町村が自ら森林整備（市町村森林経営管理事業）する制度であり、令和元年度にスタートしました。

当センターは令和3年4月に設置され、これまでに、宮崎県版「市町村業務マニュアル」策定や研修会開催、制度を進める上での疑問・質問への対応等に取り組み、市町村担当者が制度を円滑に進めることができるように支援してまいりました。

こうした取組の結果、徐々にではありますが市町村の進捗も進んできており、意向調査については、本年度に全ての市町村が着手できたところ（制度の対象地が無い諸塚村を除く）であり、担当者の皆様に感謝申し上げる次第です。

制度を進める上では様々な困難もありますが、現時点でネックとなっている点について次のことをお願いしたいと思います。

## 【市町村担当者の皆様へ】

意向調査したものの、次のステップである集積計画の策定要否について方針が決まっておらず、集積計画を策定できない市町村が多くあります。これは全国的にも共通の課題であり、全国の市町村が同じような悩みを抱えています。

こうした中、当センターは昨年度から研修等を通じて「森林経営管理制度実施方針」の作成を強く呼びかけ、昨年9月に実施方針のひな型（記載例）を

作成し市町村に配信したところです。

実施方針は、「市町村に管理を委ねたい」と回答のあった森林について、どこを優先して森林整備するかを方針として定めたものであり、制度を効率よく運用する上で不可欠であるばかりか、担当者が異動しても制度を中断することなく進めることができます。

県内市町村の実施方針の作成状況は、次のとおりです（昨年11月末時点）。

「既に作成済み」・・・・・・10市町村（うち1市は改訂済み、1市は今年度に改訂予定）

「今年度中に作成に着手」・・・11市町村

作成に当たっては、当センターが都度必要な助言を行って参りますので、作成未定の市町村も是非作成に向けて取り組んで頂くようお願いします。

※「市町村に委ねたい」と回答のあった森林については、集積計画のみならず、民間事業者への斡旋、三者協定、市町村単独事業等を活用して、森林整備に繋げることが重要です。

## 【森林組合の皆様へ】

制度を運用する中で3割強の市町村が、意向調査に係る業務の一部や資源量調査を地元の森林組合に委託しています。また、伐採木搬出の可否について現地で森林組合の意見を聞き、集積計画策定の参考にしている市町村もあるなど、地域林業の実情に詳しい森林組合は市町村から頼りにされています。

これからも、制度を進める上で市町村から協力を求められることが多々あるかと思いますが、市町村に対するご協力・連携を引き続きよろしくお願いします。



市町村森林経営管理事業による切捨間伐施行地（日向市）



集積計画作成に係る現地指導（都城市）

# 木材市況

年明けの原木の出材状況は、比較的安定した原木価格であったため、各センターとも出材は順調でした。しかししながら、1月末にかけて、寒冷による天候の影響もあり、若干出材が鈍っているところです。

令和4年10月から12月の原木市況は、横這いで推移し、令和4年12月の単月平均単価は、13,801/m<sup>3</sup>（前年同月比340円安）となりました。

令和5年初市の原木市況は、13,732円/m<sup>3</sup>をつけ、材価は保合から弱保合で推移しています。

製材品の動向については、外材製品は在庫が徐々に減少していますが、安値で取引され始めているため、国産材製品価格への影響も出てきているところです。

原木価格についても予断を許さない状況ですが、引き続き、原木・製品の動きに注視し、原木の安定価格維持に向けて取り組んでいきたいと思います。

市況については、当会ホームページに各林產物流通センターの最新市況を掲載しています。出荷時期、造材等についてご不明な点がありましたら、各センター担当までご相談ください。

## 宮崎県森連各センター素材市況 中値（1月上旬）

(単位:円 / m<sup>3</sup>)

樹種	長さ	径級	高千穂・五ヶ瀬	東郷	宮崎	都城	高原	日南
スギ	2.0	3~14	-	-	-	-	-	-
		16~28	7,500	-	-	6,000	8,000	-
	3.0	3~7	8,200	-	-	-	-	10,000
		8~11	10,000	-	8,300	11,800	-	9,600
		12~13	14,600	12,900	13,500	12,700	12,500	-
		14	18,900	18,800	14,400	16,800	16,400	13,500
		16~18	18,800	18,500	17,500	18,000	18,200	16,400
		20~22	17,500	17,700	16,700	15,700	15,600	15,700
		24~28	17,700	17,500	16,000	16,400	16,800	16,200
		30~	13,500	14,500	14,000	13,600	13,400	14,100
	4.0	3~7	13,600	13,600	11,400	-	-	14,300
		8~11	12,900	8,600	14,000	14,000	13,400	12,000
		12~14	14,400	15,400	16,000	15,200	15,100	15,200
		16	18,300	18,800	17,700	17,300	17,200	17,300
		18~22	17,000	17,500	17,000	17,100	17,000	16,600
		24~28	17,500	17,200	17,100	16,400	17,100	16,400
		30~	16,000	15,700	16,000	16,100	16,100	16,500
ヒノキ	3.0	16~18	26,000	-	-	-	-	-
		20~22	19,300	18,600	-	17,300	15,000	-
	4.0	12~13	14,500	14,900	-	11,000	12,000	-
		14~16	20,500	20,300	-	19,400	18,800	-
		18~22	21,100	21,000	-	19,400	18,400	-
	6.0	16~18	-	-	-	-	-	-
		18~20	-	-	-	-	-	-
		22~24	-	-	-	-	-	-
	4.2梁材	26~28	-	-	-	-	-	-

誤伐・盗伐の未然防止に努めるため森林境界等確認を徹底しましょう

●原木を合法木材及び木質バイオマスとして流通させるには、伐採届等の提出及び事業者認定の取得が必要です。

# 令和5年 定例市開催日

センター 月別	高千穂・五ヶ瀬	東郷	宮崎	都城	日南	高原	細島(精算日)
1	6(金) 初市 17(火)	5(木) 初市 20(金)	10(火) 初市 26(木)	7(土) 初市 23(月) 優良材市	12(木) 初市 27(金)	5(木) 初市 19(木)	13(金) 27(金)
2	2(木) 17(金)	6(月) 20(月)	9(木) 27(月)	7(火) 特別市 22(水)	13(月) 28(火)	3(金) 20(月)	15(水) 28(火)
3	2(木) 17(金)	6(月) 20(月)	9(木) 27(月)	7(火) 素生協賛市 22(水)	13(月) 28(火)	3(金) 20(月)	15(水) 29(水)
4	3(月) 17(月)	5(水) 20(木)	10(月) 26(水)	7(金) 特別市 21(金)	12(水) 27(木)	4(火) 19(水)	14(金) 27(木)
5	2(火) 17(水)	8(月) 22(月)	9(火) 26(金)	9(火) 特別市 22(月)	12(金) 29(月)	8(月) 19(金)	15(月) 29(月)
6	2(金) 16(金)	5(月) 20(火)	9(金) 26(月)	7(水) 特別市 22(木)	12(月) 27(火)	5(月) 19(月)	15(木) 29(木)
7	3(月) 18(火)	5(水) 20(木)	10(月) 26(水)	7(金) 七夕市 21(金)	12(水) 27(木)	4(火) 19(水)	14(金) 28(金)
8	2(水) 17(木)	4(金) 21(月)	8(火) 25(金)	7(月) 素生協賛市 22(火)	10(木) 28(月)	4(金) 18(金)	9(水) 29(火)
9	1(金) 15(金)	5(火) 20(水)	8(金) 26(火)	7(木) 特別市 22(金)	12(火) 27(水)	4(月) 19(火)	15(金) 29(金)
10	2(月) 17(火)	5(木) 20(金)	10(火) 26(木)	6(金) 国産材利賛市 23(月)	12(木) 27(金)	4(水) 19(木)	13(金) 27(金)
11	2(木) 17(金)	6(月) 20(月)	9(木) 25(土)	7(火) 木青金協賛市 22(水)	13(月) 27(月)	6(月) 20(月)	15(水) 29(水)
12	1(金) 15(金) 納市	5(火) 20(水) 納市	8(金) 22(金) 納市	7(木) 19(火) 納市	14(木) 納市 —	4(月) 18(月) 納市	15(金) 22(金)
センター名		所在地		電話番号	開始時刻	※木材共販規程(抜粋) 1. 入札者資格 入札資格者は、原則として、木材業者及び製材業者とする。 2. 入札保証金 入札者は、入札保証金として、入札参加申込書を添え、10万円以上の現金をもって納入するものとする。 3. 異議申立ての禁止 入札者は、現物を確認したうえ入札を行うこととし、落札後は原則として、異議の申立てはできないものとする。 4. 落札代金の支払い 落札者は、共販の翌日より起算し10日以内に落札代金を支払うものとする。 落札者が期限内に代金を納入しないときは、期限経過分について素森連が定める延滞料を徴収する。 5. 落札材の引渡し 落札物の引渡しは、代金納入がなければ行わない。 但し、入札保証預かり金範囲内の引渡しは、行うことができるものとする。 6. 販売手数料 販売手数料は從価率5.0%(員外6.0%)とし、権積料は1m <sup>3</sup> 当たり小径木950円、大径木750円(員外小径木1,300円、大径木850円)とする。(税別) 7. 土場使用料 業者は、共販の翌日より起算し、14日以内に落札物を引き取らなければならない。 引き取り期日を超過したものについては、1m <sup>3</sup> 当り95円(税別)の土場使用料を支払うものとする。	
高千穂林産物流通センター		〒882-1101 西臼杵郡高千穂町大字三田井1996-1		0982(72)2378 0982(72)5800	桧 12:30 杉 13:00		
五ヶ瀬林産物流通センター		〒882-1203 西臼杵郡五ヶ瀬町大字三ヶ所533		0982(82)1187 0982(82)1553			
東郷林産物流通センター		〒883-0105 日向市東郷町山陰己字長迫1331-2		0982(69)3317 0982(69)3382	松・広 12:30 杉・桧 13:00		
宮崎林産物流通センター		〒880-0125 宮崎市大字広原字鳥之迫6104		0985(36)3830 0985(39)4648	桧 13:15 杉 13:30		
都城林産物流通センター		〒885-0002 都城市太郎坊町1065		0986(38)4333 0986(38)4031	杉 9:30 桧 11:30		
日南林産物流通センター		〒889-2521 日南市大字東弁分字舞台ヶ迫乙2402		0987(22)3377 0987(22)3392	杉 13:30		
高原林産物流通センター		〒889-4411 西諸県郡高原町大字広原字荒迫4876-21		0984(21)2500 0984(42)1717	桧 13:00 杉 13:30		
細島木材流通センター		〒883-0063 日向市竹島町1-104		0982(57)3870 0982(57)3871			

木 材 自 給 率 5 0 % を 目 指 そ う !